

日本の国際宇宙探査シナリオ案2025について（2025年11月公表）

シナリオ案の目的

日本の国際宇宙探査事業を進める方向性の案を宇宙機関としてまとめた文書であり、政策立案、研究開発、産業連携等の今後の活動に広く活用することを目的として、JAXA国際宇宙探査センターが製作。

改定状況

最新の国際情勢や政府関連の活動に留意しつつ、国際宇宙探査に係る進捗や検討状況

を反映して最新化していくことを想定。今回(2025年版)は、第4版となる第3回目の改定。(2025年11月上旬以降に公開予定)

改訂のポイント

- ✓ 月面のサイエンスについて、月面環境理解、3科学、有人科学、科学と産業連携を新たに記載し、「月から火星へ」の流れに沿って火星着陸探査プログラムを明示。
- ✓ 初期の科学活動等で取得される環境データおよびその結果の将来活動への継続を明確化。データ取得・展開のための考え方をアーキテクチャとして新たに記載。
- ✓ 与圧ローバによる広域月面探査に続く、宇宙飛行士が常時月面で活動を行うための滞在拠点を定義し（ex. 2040年代には40人規模を想定）、主要要素である電力アーキテクチャについてのトレードオフ結果を記載。
- ✓ 政府・民間・JAXA基盤研究活動の進捗を踏まえて更新するとともに、「内閣府宇宙技術戦略書」の項番立てに沿って技術ロードマップを再整理。共通技術ロードマップを新たに記載。
- ✓ 将来の国際宇宙探査事業を進めるにあたり、さらなる検討に資するための案として重点化すべき技術領域を記載。内閣府の「月面活動に関するアーキテクチャ検討」(2025年3月、宇宙政策委員会で報告)で示された総括・今後の課題として、国際的な探査計画、水資源の状況、国際ルール・規範といった影響を与えうる変曲点要因について整理。



今回の改定では、2040年代の月面活動の詳細をより明確にし、将来的な月面社会に向け、持続可能なステップを示すことを目指す。